

オオムギ てまいらず

新たな特性を確認！
利用場面は多種多様！

春播き（リビングマルチ・自然立ち枯れ利用）

初期生育

生育最盛期

敷ワラ状に



特 性

- 発芽、初期生育が早いです。
- 春から夏にかけて播種すると出穂せず草高 30~40cm 程度で生育が止まり、気温の上昇と共に自然に枯れて敷ワラ状になります。
- キタネグサレセンチュウの密度抑制効果があります。



ここに注目！

晩夏～秋播き（すき込み利用）

年内の状況

すき込まれた様子



1 センチュウ密度抑制

表1

キタネグサレセンチュウ密度低減効果を確認しました。従来の春～初夏播きのリビングマルチ利用だけでなく、センチュウ防除を目的とした、輪作・休閑緑肥としても有効です。

2 病虫害の抑制 (リビングマルチ利用の場合)

表2

「てまいらす」が、障壁及び土着天敵のすみ家となり、主作物の害虫被害を抑制すると共に、アブラムシが媒介するウイルス病の発生も抑制します。また、降雨による土壌の跳ね返りを防止し、病原菌の植物体への付着による病害を軽減します。ダイズのアブラムシ類、ネギのネギアザミウマ、キャベツのモンシロチョウ幼虫・アブラムシ類の密度抑制効果及び被害軽減効果が確認されています。また、コンニャク根腐病・えそ萎縮病についても抑制効果が確認されています。

3 アブラナ科黒斑細菌病について

「てまいらす」は一部地域において問題となっている黒斑細菌病の病原菌 (*P. cannabina* pv. *alisalensis*) に罹病せず、アブラナ科野菜の輪作・休閑緑肥として安心して利用できます。

4 雑草抑制

表3

発芽後の生育が早いいため、土壌を被覆するスピードが早く、雑草の発生を抑制します。雑草発生が多い圃場では、主作物に登録のある土壌処理剤を併用することで、確実に効果が得られます。

5 地温抑制

表4

リビングマルチの効果により、真夏で裸地に比べ 10℃以上の地温抑制効果があります。

6 乾燥防止

リビングマルチの効果により、地表面の乾燥を防止します。(敷ワラの効果)

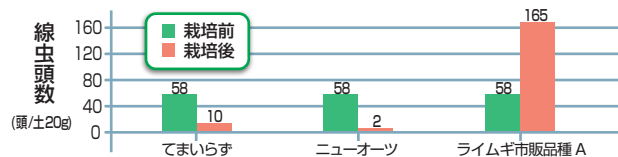
7 土壌固結緩和・排水性の改善

根系は地下 50cm 程度まで届き、排水性と通気性の改善に効果があります。

8 有機物補給

春播きの場合、最大で生草2t/10a程度の有機物補給効果があります。晩夏播き年内すき込み、秋播き翌春すき込みの場合、さらに有機物量は多くなります。

表1 「てまいらす」によるキタネグサレセンチュウ密度抑制効果



試験場所 カネコ種苗(株)くさだ育種農場ガラス温室内
栽培期間 2013年10月16日～2014年1月21日(98日間)
栽培規模 10.5cmプラスチック製ポット 3株/ポット 5反復
分離方法 根を取り除いた栽培残土をよく混合し、ペルマン法(23℃・48時間)により線虫を分離

表2 春播きキャベツ各区の害虫被害程度

— キャベツ5月16日定植 定植直前に「てまいらす」を通路中心に播種 —
(2007年宮城県農業園芸総合研究所)

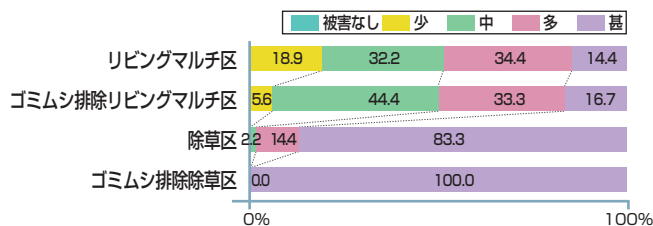


表3 てまいらすの播種量別雑草発生量

(くさだ農場調べ 5月上旬播種 6月下旬調査 2ヶ年平均)

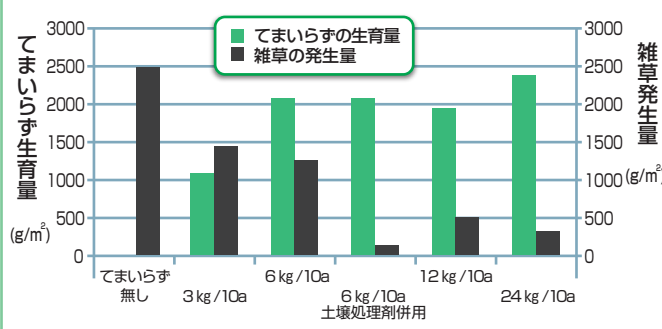
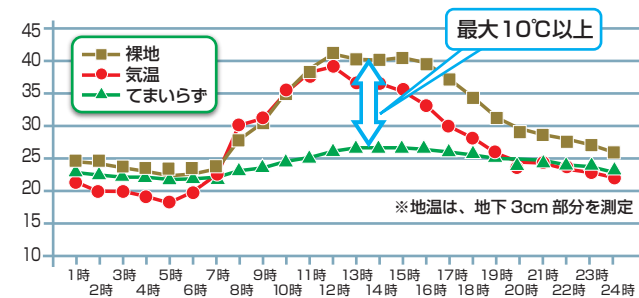


表4 リビングマルチ用麦の有無による地温の違い

(2012年8月9日くさだ農場調べ)

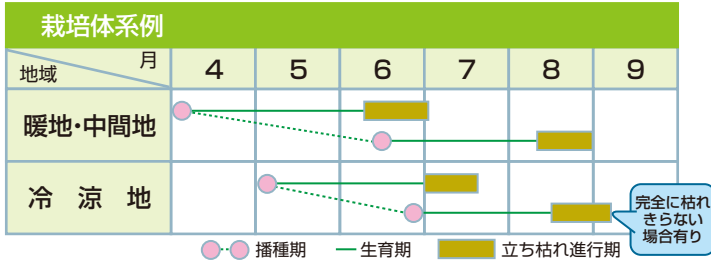


てまいらず

「栽培ポイント」

1 播種時期 (リビングマルチ・自然立ち枯れ利用)

極端な早播きは部分出穂の恐れがあるので、なるべく避けて下さい。桜の開花時期以降が目安です。また、最高気温が 25℃を上回るような時期の播種は雑草の生育が早く、負けやすいので、除草剤との併用がおすすめです。



除草剤の利用について

必ず主作物と麦類の両方に登録のある除草剤を使用して下さい。

2 播種方法

種まきごんべえやクリーンシーダーの利用がおすすめです。通路等に播く場合は畝間 30cm程度にして下さい。散播でも良いですが、ムラなく播くようにし、覆土と鎮圧を必ず行って下さい。覆土鎮圧不足は、鳥害を受けやすく、初期生育が安定しないため、十分な雑草抑制効果を得られない場合があります。

播種ベルトについて

各播種機、小麦・大麦用のベルトを利用して下さい。お手元に、ダイズ・トウモロコシ用のものがあれば流用できます。その場合、株間等で播種量を調整して下さい。

3 播種量

- 3 ~ 4kg/10a (間作利用、播種機使用)
- 8 ~ 10kg/10a (全面散播)

4 枯死までの基準日数 (リビングマルチ・自然立ち枯れ利用)

くにさだ農場調べ()内は日数

	4月上旬播種		5月上旬播種		6月上旬播種		7月上旬播種	
	枯れ始め	完全枯死	枯れ始め	完全枯死	枯れ始め	完全枯死	枯れ始め	完全枯死
マルチムギ®ワイド	6月上旬 (60)	6月下旬 (80)	6月下旬 (45)	7月中旬 (80)	7月下旬 (45)	8月中旬 (70)	8月上旬 (30)	9月上旬 (60)
てまいらず	6月上旬(60)	6月下旬(80)	6月下旬(50)	7月中旬(80)	8月上旬(50)	8月下旬(80)	8月上旬(30)	枯れず
マルチムギ®	6月下旬 (80)	8月下旬 (140)	6月下旬 (50)	枯れず	8月上旬 (50)	枯れず	枯れず	枯れず

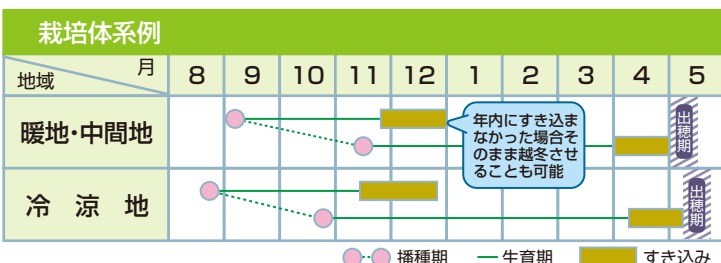
※地域、気象天候により枯れる日数が異なります。

枯れきらなかった場合の対処について

8月下旬頃の時点で、麦が枯れきらずに緑葉が残っている場合は、9月に入って涼しくなるにつれて生育が復活する場合があります。主作物との競合が心配される場合は、刈り払うか、主作物に登録のある茎葉処理除草剤を麦に散布して完全に枯らして下さい。

5 晩夏～秋播きでのすき込み利用

夏～秋にかけての播種では、枯死はしませんが、出穂せず草高が低いので、すき込みが楽で緑肥利用に最適です。ほとんどが茎葉のため腐熟しやすく、後作物への影響が少ないです。ただし、越冬させると翌春は出穂しますので、早めのすき込みをおすすめします。



秋播きでも利用価値大!

株張り良く豊富な有機物を確保



てまいらず

他品種エンバク

実例紹介

リビングマルチ・自然立ち枯れ利用



ナス

乾燥防止、雑草抑制、土着天敵温存効果でアブラムシ、アザミウマの被害軽減。



ズッキーニ

土着天敵温存効果でアブラムシ被害を軽減。泥はね防止効果で病気の発生軽減。



ナガイモ

通路部分の滞水状態の改善、土壌水分を一定に保ち秀品率向上に。

リビングマルチ以外の利用



オクラ

乾燥防止、天敵温存でアブラムシ被害軽減に。



圃場全面にバラ播きし、有機物補給、センチュウの密度抑制に。
(春～初夏に播いた場合以外ではすき込みが必要になります。)

その他の品目に関しても多数の導入事例がありますが、初めて試す場合は小面積から始めてください。一部の品目については、導入方法に関してリーフレットをご用意しております。最寄りの支店、営業所にお問い合わせください。

特性の比較 (リビングマルチ・自然立ち枯れ利用)

シリーズ3品種の特性比較

	草種	初期生育	葉幅	生育量	被覆力	出穂のしやすさ	枯れの早さ	品種選定ポイント
		5:早い	5:広い	5:多い	5:強い	5:しにくい	5:早い	
マルチムギ®ワイド <small>(PVP登録品種(登録名 シンジュボシ) 海外持出禁止(公示)農林水産省HP参照)</small>	六条大麦	5	5	4	4	3	5	早枯れ品種 てまいらずよりやや早く枯れる。草高低く、被覆幅が広い。
てまいらず	六条大麦	5	5	5	5	4	4	基本品種 生育旺盛で土壌被覆が早い。初めて試す場合はコレ!
マルチムギ®	小麦	2	2	3	2	5	1	遅枯れ品種 夏以降も枯れずに被覆効果を期待する場合に適する。初期生育は、大麦2品種に比べると遅いので、雑草抑制効果は低い。

カネコ種苗株式会社

本社 緑飼部/群馬県前橋市古市町1-50-12
〒371-8503 TEL 027(253)0561(代) FAX 027(290)1045